

事項	リンゴ紫紋羽病及びリンゴ白紋羽病に対するフルアジナム水和剤（フロンサイドSC）の利用法（追加）		
ねらい	リンゴ紫紋羽病及びリンゴ白紋羽病に対するフルアジナム水和剤（フロンサイドSC）の利用法については、平成14年度指導奨励事項及び平成16年度指導参考資料として公表していたが、フロンサイドSCの発病抑制期間が明らかになったので追加して普及に移す。		
指導奨励内容	<p>1 成木ほ場でフロンサイドSC1,000倍液を土壌かん注処理した場合、紫紋羽病菌及び白紋羽病菌に対して約2年間の発病抑制効果が期待できる。</p> <p>2 植え付け時に植穴にフロンサイドSC500倍液を土壌かん注処理した場合、紫紋羽病菌及び白紋羽病菌に対して約3年間発病抑制効果が期待できる。</p>		
期待される効果	処理濃度によって発病抑制期間が推定でき、再処理時期の目安が容易になる。		
普及上の注意事項	<p>1 本資料は平成17年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</p> <p>3 発病抑制期間は目安であるので、処理樹に紋羽病の症状がみられたら再処理等の対策を講じる。</p>		
担当	青森県農林総合研究センターりんご試験場 病虫肥料部	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>日本植物病理学会報 第68巻 第2号</p> <p>北日本病害虫研究報告 第54号</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 処理2年後におけるフロンサイドSCの発病抑制効果 (平成15年 青森農林総研りんご試)

試験区	対象病害	供試樹数	枯死樹数	菌糸束 <sup>1)</sup>				根部腐敗 <sup>2)</sup>			
				-	+	++	+++	-	+	++	+++
フロンサイドSC 500倍	白紋羽病	15	0	14	1	0	0	15	0	0	0
フロンサイドSC 1,000倍		15	1	10	2	2	1	12	1	1	1
無処理		15	8	2	3	1	9	2	3	1	9
フロンサイドSC 500倍	紫紋羽病	15	0	4	11	0	0	15	0	0	0
フロンサイドSC 1,000倍		15	4	0	5	5	5	5	3	7	0
無処理		15	10	0	0	0	15	0	0	1	14

(注) 1 菌糸束の伸展程度 - : 伸展なし、+ : ごく一部の根に伸展、++ : 多くの根に伸展  
+++ : 地際部より下の根域を含めたほぼ全ての根に伸展

2 根部腐敗の発生程度 - : 腐敗根なし、+ : 腐敗根の割合が全根量の1/4未満  
++ : 同じく1/4~1/2未満、+++ : 同じく1/2以上

3 試験方法

薬剤処理 : 平成13年5月に深さ30cmまで深耕整地し、1.2×1.2mの区画に深さ30cm、20~30cm間隔で30~40か所、1か所当たり2~3ℓ、合計100ℓの供試薬剤を注入処理。  
供試数は各3区画。

検定土は処理182日後(平成13年11月)、処理735日後(平成15年5月)および処理1,107日後(平成16年5月)に区画から土壌を採取し、径4mmのふるいを通したものの。

検定方法 : ポットに検定土とともに1年生のマルバカイドウを植え付け。接種源はリンゴ切り枝培養の白紋羽病菌5g、紫紋羽病菌8g。1区画5本。ポットは25℃・植物用ホモルクス蛍光灯の24時間照明。接種後30日後(白紋羽病)と40~50日後(紫紋羽病)に検定。

表2 処理3年後におけるフロンサイドSCの発病抑制効果 (平成16年 青森農林総研りんご試)

試験区	対象病害	供試樹数	枯死樹数	菌糸束 <sup>1)</sup>				根部腐敗 <sup>2)</sup>			
				-	+	++	+++	-	+	++	+++
フロンサイドSC 500倍	白紋羽病	15	0	14	1	0	0	15	0	0	0
フロンサイドSC 1,000倍		15	11	4	0	1	10	4	0	0	11
無処理		15	15	0	0	0	15	0	0	0	15
フロンサイドSC 500倍	紫紋羽病	15	0	0	11	2	0	14	1	0	0
フロンサイドSC 1,000倍		15	8	0	5	2	8	5	0	2	8
無処理		15	15	0	0	0	15	0	0	0	15

(注) 1、2、3 表1に準じる。

(参考) 現在、指導しているフロンサイドSCを利用した防除方法

適用病害	処理方法	希釈倍数	処 理 量 等
白紋羽病 紫紋羽病	土壌かん注	1,000倍	露出かん注法、土壌注入法で処理(平成14年度指導奨励事項参照) 1樹当たり100ℓ(わい性台樹)
白紋羽病 紫紋羽病	土壌かん注	500倍	植え付け時に消毒処理(平成16年度指導参考資料参照) 1樹当たり50ℓ(植え穴消毒)